

お茶から見るアジア (2)

タイ国民党残党の 村の茶畑

須賀 努

皆さんはタイの飲み物と言うと何を思い浮かべるであろうか。筆者はタイ人がコーラを飲んでいる場面がどうしても浮かんでしまい、少なくともお茶を飲んでいる風景は想像できない。バンコックのチャイナタウン、ヤワラーには中国の潮州出身者が多い。潮州と言えば現在では鳳凰単叢と呼ばれるフルーティーな美味しいお茶が採れるので、ヤワラーにもあるかと思いつつも足を運んだが、表でお茶を飲んでる風景を見ることはなかった。

タイなのに中国語が通じる街
メーサローンは標高一千三百メートル、タイとしては気候が涼しく、避暑地として、また桜の名所として有名な観光地である。行って見てまず驚くことは至る所に漢字とタイ語が併記された看板があること。そしてそこに住んでいる人は中国系が多く、タイなのに中国語が普通に街で通じること。それは何故か。理由はここがタイにいくつかあるいわゆる国民党残党の村の一つだからである。

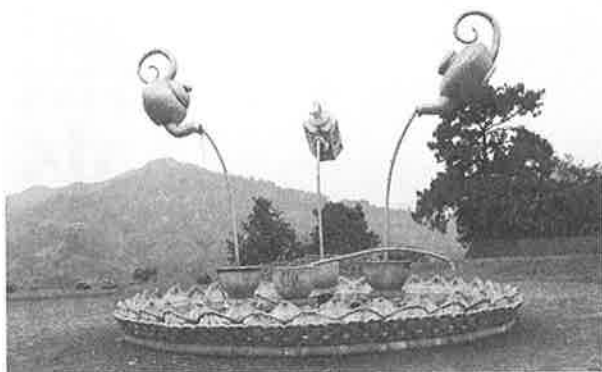
第二次大戦での日本の敗戦後、中国大陸では共産党と国民党による国共内戦が行われ、毛沢東の共産党が勝利、敗れた蒋介石ら国民党は台湾へ退去した。しかし中国全土の国民党軍が台湾へ行けたわけではない。雲南省など西部の国民党軍とその家族はやむを得ず、ビルマに逃げ込んだが、一九六〇年代にはそのビルマでも革命が起き、タイ北部の山中に逃れることになる。この間



メーサローンに広がる茶畑での茶摘み風景
(2011年12月 筆者撮影)

の苦難の道のりは想像を絶するものがあつたと後で聞いた。これが国民党残党の村の起りである。

当初は台湾と歩調を合わせて大陸反攻を



メーサロンの茶業を象徴するモニュメント
(2011年12月 筆者撮影)

謳っていたものの、一九七五年に蒋介石が亡くなる頃から、実質的に方向を転換し、この地に土着することを決意。司令官がタイ国王に謁見するなど、徐々にタイ化を図り、八〇年代からタイ国籍の取得も進められ、今では人々はタイ語と中国語（普通話と各方言）の両方を話すようになっていた。当時自らの食い扶持を確保するため、考えられたのが観光業と茶業だったとか。

台湾との深い関係

当然の事ではあるが、この街には台湾国民党政府から様々な援助がなされている。蒋介石村と名付けられた村があったり、台

湾の寄付で出来た道もある。特に茶業に関しては、九〇年頃から茶樹、栽培技術、製茶機械、などが台湾から持ち込まれ、台湾と同じような手法で烏龍茶を作ってきた。

当初は悪戦苦闘しながらの茶作りだったというが、気候、土壌などの条件に恵まれ、徐々に品質も向上している。今回訪ねた茶工場には台湾の阿里山から茶師が招かれており、五年前よりさらにレベルが上がったという印象がある。今ではメーサロンのタイの主要茶葉生産地となっている。

作られた茶葉の多くはその繋がりがから台湾へ輸出されている。ただ台湾高山茶ほどの知名度がなく、レストランなどで出される安いお茶に分類されてしまうこともある。またお土産用の茶として売られているケースもあると聞く。台湾以外への輸出も考え欧米や中東に売り込みに行ったこともあるが、やはり知名度の点で今一つ評価が得られなかったようだ。

しかし最近中国人が大挙して台湾へ観光に行き、お土産に茶を買っていること、また中国国内でも、台湾茶が一種のブームになっていることに目を付け、台湾産と同じ製法のメーサロン産を広めるべく、大陸への直接売り込みも始まっている。

今後の展望

ご多分に漏れず、ここメーサロンの茶業界でも、製茶のコスト上昇が悩みの種。

急斜面での茶摘みはアカ族やリス族など少数民族が担っており、賃金は中国などに比べて押さえられているものの、最近是一年間で五〇%も上昇したと聞く。

タイ茶業協会の李泰増主席は、「コスト上昇はアジア各国共通の課題。如何に品質の良い茶を作り、販路を拡大するかが生き残りの鍵」と話し、主席みずから中国国内で開催された茶のシンポジウムで講演し、タイ産茶の良さをアピールしている。また中国・台湾での紅茶ブームをフォローして、ここでも香り高いメーサロン紅茶の生産を開始して、消費者のニーズにも応えている。

更に李主席が期待しているのが、タイ人の動向だ。これまでお茶を飲まないと言われてきたタイ人だが、昨今の健康志向の高まりなどで、お茶の効能に注目し始めている。少なくともメーサロンを観光で訪れるタイ人が増え、「自然との触れ合い」を志向する中、お茶は彼らにフィットする飲料として映るようだ。

経済的に消費力が高まっているタイの生産階級が茶の良さを理解し、継続的に飲むようになれば、タイの茶産業にとってこの上ない僥倖となるのではないだろうか。同時に寒がりのタイ人が涼しいメーサロンでテントを張り、野営を楽しむ姿を見ると、時代の変化がひしひしと実感できる。

(コラムニスト)